



笠懸小学校は今年も思いやりも群馬県一を目指します!

やさしく
たたく
しまし
く



笠懸小学校

学校だより No.41 2023.2.16

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

みどり市教育委員会表彰で新井くん(6-3)が表彰されました

2月12日(日)にグンエイホールPALにて、令和4年度のみどり市生涯学習大会が実施され、この中で、みどり市教育委員会表彰がありました。この表彰は、全国レベルで活躍した個人や団体が表彰されるもので、今年度は市内で5名の方が受賞されました。笠小からは、新井崇真くん(6-3)が表彰されました。表彰の理由は、日本バレーボール協会等が主催した「第42回全日本バレーボール小学生大会(男女混合の部)」において第3位となったものが認められたものです。新井くんはキビキビとした立派な態度で表彰を受けていました。これからも、スポーツを通して、さらに自分のよさを伸ばしてほしいと思います。おめでとうございます。



中央が新井くんです

「提言R5～子どもたちに豊かな学びを届けるために～」を受けて

タイトルのように、教職員の多忙化解消に向けた協議会(群馬県教育委員会)から出された「提言R5～子どもたちに豊かな学びを届けるために～」を本日配布しました。提言にもあるように、学校は保護者の皆様や地域のご協力と教職員の熱意と努力で日々運営しているところですが、昨今、報道等でも伝えられているとおり、教職員の心身の健康や人材確保についての課題が指摘されているところです。提言には、「教員でしかできない業務に専念する時間を優先的に確保し、より時間と心に余裕をもって一人一人の子どもとしっかり向き合うことで教育の質を高め、豊かな学びを届ける」と、その目的が挙げられています。まさにこのことが大切であると考えます。自身の経験からも、時間と心に余裕がないときは、子どもの思いや願いに気づいてあげることができなかつたり、よさを褒めてあげられなかつたりすることがありました。提言に挙げられているいくつかの事柄のうち、保護者の皆様と関係の深いものについて、笠小の現状や今後の考え方、方向性についてこの場で説明していきたいと思います。既に対応済の事項もありますが、大きく変わることもあります。主旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。

■定例的な家庭訪問

→新型コロナウイルス感染症の対応で中止してまいりましたが、今後も実施しない方向です。しかし、来校いただいで教育相談や電話相談、必要に応じた家庭訪問等のコミュニケーションは積極的にとってまいりたいと考えています。お子さんのよさについても、課題についても共有し、協働して子どもたちをよりよく育ててまいりましょう。

■勤務時間外(夜間)の電話

→本日、電話対応についての通知も配布しました。笠小としては、これまでと変わりありませんが、みどり市内の小学校全体で取り組むことになり、あらためての通知となります。

■夏休みのプール指導・プール開放

→夏休みのプール開放については、昨今の猛暑に伴う登下校の安全確保等の観点から、実施しない方向です。このことについては、賛否あることは承知しておりますが、県内では多くの地域で夏休みのプール開放を中止していることを鑑み、みどり市内の小学校でも同様の対応をとることとなりました。なお、水泳記録会に向けた選手の練習については、継続していきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

■欠席連絡 アンケート調査等のデジタル化

→既に対応済です。今後とも継続します。

■卒業式などの式典、運動会やペース走などの学校行事

→式典や学校行事については、子どもたちの姿や活躍する場面を見ていただくよい機会にしていきたいと思えます。直近では、卒業式の保護者の動画撮影をしていただいてもよいことや、卒業証書の授与の際にお子さんの顔がモニターで見られるようにすることなどの改善に取り組んでいます。運動会の種目等についても、更に工夫していく予定です。今後も保護者の皆様のご意見を取り入れながら、よりよい行事を目指して少しずつ改善を重ねてまいりたいと考えています。

■PTA行事

→このことについては、組織のあり方や行事の精選について指摘されていますが、これは、皆さんとの合意の上で改善されていくべきものと考えております。皆さんの発案による提案をお待ちしております。PTA総会については、新型コロナウイルス感染症対策のため、ここ3年間、書面開催としていました。このことで不都合なことがないようであれば、書面開催を継続することもよいのではないかと考えています。

■作品募集(学校におけるとりまとめ)

→提言にもあるように、学校には様々な団体からの作品募集が届きます。夏休みを中心に子どもたちに紹介したり、宿題としたりして、学校でとりまとめて応募しているところです。実際には、非常に多くの募集がある中から精選し、紹介したり宿題にしたりしていることをご理解ください。このような状況の中、お子さんの興味ある内容や得意な分野での募集が紹介できていない場合があります。このことについては、インターネット等で情報がたくさんありますので、お子さんのよさを伸ばすという観点から、個人で出品をしていくのもよいと思います。もちろん学校での作品募集は継続してまいります。

高校生ボランティアチューターが来校中です

進路の決定した高校生が卒業式までの間に、母校でボランティアを行う活動が群馬県内の各高等学校で行われています。今年度、笠小には、樹徳高校3年生の藤掛亜衣菜さんが、13日(月)から21日(火)までの間、主に2年3組で先生の仕事を体験したり、子どもたちとの関わりを通じた学習をしたりします。藤掛さんは4月から薬学部の大学生になるそうです。藤掛さんにインタビューしてみましたので、そのお話を紹介します。進むべき方向性を決めるきっかけは小学校だったそうで、その考え方も、とても参考になるお話でしたので、ぜひご一読ください。



校:笠小でボランティアをやろうと思ったきっかけは何ですか。

藤:将来は薬剤師として人と関わる仕事に就きたいと思っているので、その時にいろいろな世代の人と仲良くお話しができるようにというのがきっかけです。

校:薬学の道に進もうと思ったきっかけは何ですか。

藤:母がよく頭痛になるのですが、その時に薬を飲むと治ることが不思議で興味をもつようになりました。また、薬によって効果があったりなかったりするところも、とても興味深いものでした。薬局に行ったときには、たくさん薬があるのにもかかわらず、薬剤師の方に相談してみると、とても丁寧に違いを説明いただき、すごいなあと思ったこともありました。

校:そう思ったのは、いつ頃のことですか。

藤:小学校6年生の時です。そして、感謝のつどいの中で、将来は薬剤師になりたいと笠小の体育館で発表したことをよく覚えています。

校:そうでしたか。実は先日今の6年生も感謝の集いの中で将来の夢を発表したところなんです。その時の夢が近づいているのですね。薬剤師といってもたくさんの働き方があると思いますが、今は、どのようなイメージをもっていますか。

藤:今は、薬局で働きたいと考えていますが、勉強を重ねていく中で、見方も変わってくるかもしれないと思っています。病院での勤務や研究機関での仕事などもあると思うので、学びながら考えていきたいと思っています。

校:笠小の印象はどうですか。

藤:皆フレンドリーに「あいな先生」と話しかけてくれてうれしいです。たくさんの人とお話したいです。

